みいけ主婦会

※原稿送り先＝大牟田市不知火町2丁目
三池炭鉱主婦会
※電話で知らせるとき＝市内3033・7140 炭鉱＝474・528
※責任者＝文教部長　下川秀子

私たちの運動会

宮浦月見ガ丘分会　伊牟田瑞恵

スプンレースにみんなの顔は明るくはずむ

六月五日、天候晴れ時々曇りの絶好の運動会日和に恵まれて、この宮浦グランドで三池主婦会宮浦支部の大運動会が挙行された。定刻の午前九時前には数人づれの外来分会や社宅の各分会が、分会旗を先頭にぞくぞくと集まってくる。千八百名のどの顔もいきいきとして明るく楽しそうだ。

開会式の爆竹を合図に数十羽の鳩が六月の空へさっと舞い上る。私達のシンボル、平和の鳩にわれるような拍手がわく。

力強い炭婦協の歌の大合唱があって、支部長や来賓のあいさつがあり、会社と団交前の組合長も来られ、いつもの人なつこい元気な笑顔に信頼感がわいてくる。「団交、しっかり頼みます」と心の中ではげます。

にぎやかな応援

いよいよゲーム開始、グランドのあちこちから各分会の応援団がチャッチャヤッチャ、ドンドンドン、フレーフレーとにぎやかにやり出した。

私たちも負けてはならじと、リーダーたちがとび出して、扇をひろげると、見物席の会員や、おばあちゃん、それに三番方出勤まえの組合員の人たちまで元気いっぱい手拍子をたたいて応援する。私の出番の紅白玉入れがすみ、賞品の湯のみ茶わんをもらって席にかえると、さあ忙しい、こんどは応援である。

六月の陽ざしに照らされて、のどがかわく。場内で社宅同の皆さんがアイスクリームの販売をやっている。高松のカンパだとのこと「ほんとうにご苦労さまね」とクリームを買ってのどをうるおす。そのうまいこと、ふとスト中に来て下さった高松のオルグの人たちのなつかしい顔が頭の中をかすめる。

ゲームはスプンレース、団結、恋人さがしなどつぎつぎとスムースに進行していく。

役員リレーでは、ころんだ方が早いような支部長の力走にみんながどっと拍手をおくる。

来賓競走もまた愉快だ。日ごろはちょっとえらそうに思える紳士諸君が、お尻で風船をパンと割りそこね、どしんとシリモチをつくかっこうなんか、いま思い出してもふきだしたくなってくる。

美しい敢闘精神

各地区別リレーがはじまって、私たちの分会のOさんは四十代の先頭に力走していたが、トラックのまがり角でつまづきバッタリ倒れた。「あっ危い！」と思った途端、むっくり起き上ったOさんはすりむいてまっ黒に汚れた顔や手足も何のそのと、歯をくいしばって懸命に走り出した。

走り終ったOさんは「みんなにすまない、すまない」とわびていたが、リレーの勝ち負けより以上に、このOさんのような責任感と敢闘精神こそ何よりも大切なことではないだろうか。

団体競技は見知らぬ人と組むのだが、たがいに手と手をしっかりとり合って走り出す。おくれそうになった年配のおばさんも一緒にかばいながらボールをけっていく

苦しい時にも仲間を助け
大根足に力をこめて
走る走る　母ちゃんたちは
明日への希望に胸はずませて

この歌は私たちの分会のTさんが作った運動会の応援歌の一節だが、これはこのまま、この日のゲームに見られ、また毎日の生活の中にも生かされていくものと思う。

見事な踊りの輪

ばちまきを前に結んで炭鉱節がはじまる。会員全部が一緒に集まってやるのははじめてで、少しはそろうだろうかと案じていたが、やってみてびっくり。千八百名の会員がグランドいっぱいに七重に八重に輪をつくり、見事な踊りを展開する。

誰ひとりとしてまちがう人がいないのである。よくそろったものだと自分も踊りながら感心する。元気いっぱいサノヨイヨイと合の手を入れる。

レコード一回ではあまりにも惜しい。もう一回踊る。国体のマスゲームも顔まけするような見事な踊りの輪は、会員の和やかな心が一つにとけ合ったからこそ出来たのだと思う。

お祭りのような仮装行列

どこの運動会も午後になると、少しだらけてくるのが常なのだが私たちの運動会には少しもそんなところはない。むしろ一段と盛り上ってきた感じだ。

運動会の呼びもの、仮装行列が各分会思い思いの趣向をこらして登場する。ちょっとした町のお祭りもかなわぬような奇抜な仮装もあって、グラウンドいっぱい爆笑と拍手のあらしである。

ゲームも終りに近づいて、地区別リレーの決勝になったが、すぐ近くのM分会は決勝に進出しているが、応援のリーダーがいなく、ちょっとさびしそうに思えたので誰からともなく応援に行こうということになって、私たちリーダー五、六名が応援に出むくと、M分会のみなさんたちの顔に元気が出てきたようだ。

練習もしないのに元気よくチャヤツチャヤツチャと、私たちの音頭によく合せてくれる。かわいい坊やも小旗をしっかり振って、フレーフレーとやり出した。私たちとピッタリいきが合っている。

やっぱり同じ三池の主婦だものと、何かほのぼのとしたものを感じて楽しくなってきた。

盛上げた団結の力

最後の閉会式まで終始明るく楽しく力強いフンイキにつつまれて、ほんとうに、すばらしい運動会だった。

これも一朝一夕でできた運動会ではなく、それは永い間の苦しい闘争の中で芽ばえ、差別待遇、賃下げのきびしい現実の中できたえられた主婦会の不屈の団結の力が盛り上げた運動会だからである。

私たちの前途には、より以上の困難があることだろうが、苦しいとき、つらいとき、きょうのこの気持ちを忘れずに、共に手をとり合って走った仲間を思い出し、みんながんばっているんだ、まけてなるかと思うとき、新たな勇気と力がわいてくるだろう。

そして子供たちの幸せを守り、みんなの幸せをきずくために明るく元気で手をとり合ってがんばっていこう。

運動会の成功のかげに、いろいろとご苦労なさった支部長さんはじめ役員のみなさん、ほんとうにありがとうございました。ご苦労さまでした。

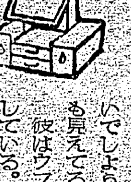
ある午さがり

三川支部　古閑　久代

十二時のサイレンが鳴ったのに、お父さんはまだまだ白河夜舟。三番方上りなので、起すのはほんとうに可哀そうと思うけど、買って来たパンはとっても美味しそうで、私ひとりで食べるには惜しいし……どうしようといろいろ考えた末、やっぱり起すことにした。

ねむい眼をこすりこすり、でも熱いお茶のひと口は彼の目覚めをご機げんにした。子どものように二人でパンをかじる。他愛ない話をしいしい……。

そこへ子ねこがとんで来た。食べもしないくせに、あっちこっち、かじりついたりかみついたり。あまりうるさいから、私は思いつくままパンを包んであったビニールの袋を子ねこにかぶせてやった。ビニールなので眼は見えるはずなのに、ねこはずんずん後ずさりして逃げる。



「ねえ、眼は見えてるのになぜ前へ行かないのか知ら？」

「そりゃア昔からねこにかん袋っていうからさ」

「だって、かん袋は何も見えないでしょう。でもこの袋は何でも見えてるのよ」

彼はウフフって笑ってごまかしている。私にはどうも納得できない。この疑問どこへ持って行こうかなと考えていたら、アッそうだ、いいこと考えた―教宣部長がいい。評議員会で集会所へ行けば、必らず教宣部長からありがたーいお説教がある。

そしてそのあと、必らず質問はありませんかとくる。その機をのがさず私は「ハイッ」と手をあげて、「あの―何の質問でもよろしいでしょうか」と一言お断わりしたあとで、おもむろにねこの話を持ちだす……。

突拍子もない質問で、面くらった教宣部長の表情がどのような動きをみせて変化するだろうかなど想像していたら、私はひとり吹き出してしまった。おなかのなかからこみ上げてくる笑いをどうにも押え切れなくて―

教宣部長殿　ご免なさい。

山川菊榮さんとこん談

社会評論家山川菊栄さんが去る八日、来組されました。

主婦会では午後一時から本部役員支部長らが山川さんを囲んで懇談会をひらきましたが、とくに山川さんは、三池のそのごの状況、差別の問題、坑内の労働条件、主婦たちの生活とのたたかいなどを、この座談会のなかで詳しく聞かれひとつひとつメモされていました

山川さん（中央）を囲んでの懇談会

資金カンパ

▽六月十日

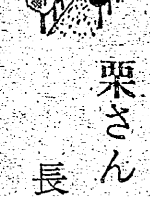
東京都文京区お茶水大学自治会お茶水大三池を守る会、名古屋市千種区全国金属労組愛知地方本部、枕崎市枕崎郵便局内全逓南ノ支部三池を守る会、川崎市柏保操、田川市産業セメント労組、宮崎県全電通小林電報局電話局分会、社会主義協会九州支局、遠藤長市、下田正人、愛知県春日井市十条製紙労組春日井三池を守る会

▽六月十二日

東京都千代田区全日本損害保険労組東京地方協議会、新潟県直江津市全電通直江津分会三池を守る会、東京都丸山博

栗さんの思い出

長島又男



五月二十五日、栗林農夫（たみお）が死んだ。

わたしと栗林との仲はずいぶん古い。わたしが一九二九年（昭和四年）かけ出しの記者として新聞連合社（同盟通信社の前身）に入社したとき、彼は改造社の記者からこの社に転じ、すでにベテラン社会部記者として鳴らしていた。以来終戦まで、いろいろと起伏はあったが、彼は社会部記者として、わたしは政治部記者として共に終始した。

終戦の一九四五年十二月一日、わたしたちは、日刊新聞「民報」を創刊した。栗林は自ら編集局長をかって出て、四八年十一月三十日、廃刊の止むなきにいたるまで丸三年、文字通り精魂をかたむけて働いた。「民報」に「解放言」というコラム欄があり、このうけもちは彼だった。毎日一人でコラム欄を書くということは並大抵の仕事ではない。彼の悲鳴をあげた窮余の一策が、得意の川柳での穴埋めとなったのである。ところがそれが読者に大受けにうけたのである。彼が川柳を書くときつかった「九里三」という筆名は、彼の愛称「くりさん」（栗さん）をもじったものだ。

彼の死は、さながら日本の進歩的俳句界葬の感があった。彼のその方面の業績からして当然のことではあるが、彼のジャーナリストとしての業績の大きかったことも、わたしたちには忘れられない。

ここにのせるのは「民報」で天皇制を風刺した彼の川柳である。「民報」の終刊号にのった「輝やける歴史閉ず、民主報道陣営の孤塁守った民報三年の歴史」なる名文章は、無署名だが、彼のものだったことを付記しておく。

十二重モンペにすれば長すぎる
大君をおき去りにしてみんな行き（巣鴨行きのこと）
大みたからなどと搾られるめいわくさ
元日や神世の歴史ウソだとさ（天皇の人格宣言）
高千穂の峰より落つるウソの川

（ながしま・また お氏は元「民報」主筆、現日本機関紙通信社理事長）

※栗林さんは「みいけ」の文芸にたびたび選者として指導され、私たちに忘れられない人です。

〔トピック〕

小児マヒ薬『ニワリン』（ブルガリア）

ソ連のガランタミンといえば、小児マヒの特効薬として有名だが、社会主義の国ブルガリアでも最近「ニワリン」という小児マヒの薬ができて大きな効果をあげているこの薬はブルガリアの家庭でひろく用いられている薬用植物の花から抽出したもので、軽度の小児マヒと神経炎を完全に治すことができ、神経系統に対してけんちょな鎮静作用を示す。ソフィア市神経・精神病研究所では一九五九年以来、二百人の患者にこの薬を使ったが、八〇%以上の人に効果がみられ、全治または病状が好転したといわれる。

訪ソ使節団各地で活躍

総評が派遣している訪ソ・アマチュア文化使節団が各地で非常な歓迎をうけているが、グルジア共和国のトビリシからの報道によると文化代表団はトビリシ地域でも三カ所で織物労働者、鉄鋼労働者に日本の歌や踊りをひろうした。同地方の新聞「グルジア・プレス紙」は日本のアマチュア芸術団を高く評価して「すべての出しものは大当りで日本の歌と踊り、とくに両国人民の平和と友情のための闘いの歌をおりこんだ番組の数々は大かっさいをうけ、アンコールをうけた」と伝えている。団長の山中さんはタスの記者のインタビューで観覧者との会合ではとりわけ暖い、兄弟的な歓迎をうけたと語っている。

ユダヤ娘の悲劇「ゼロ地帯」

（イタリア映画）

アイヒマン裁判でナチのユダヤ人大虐殺が白日のもとにさらされ、世界中を驚かせ、憤激させているが、この映画は十六才のユダヤ娘がたどった悲劇を内容としたドラマで、ナチの残虐行為が底知れぬ恐怖をもったものであったことを改めて知らしてくれる。

ユダヤ娘エディットが収容された収容所は「アウシュビイッツよりはひどくない」収容所。年上の女囚の計いで、エディットは死亡した一般女囚ニコールになり変り、ガス室送りをまぬかれたが、その直後、別の収容所に移され強制労働させられる。彼女は、生きのびるためにドイツ士官に体を提供し、やがて「カポー」とよばれる女子監視員になる。カポーは同胞をむち打つことで自己の安泰を保つという、いわば売国奴の存在。両親がナチの手で殺されただけに悩みもあるが、絶望しきっている彼女には今日だけが生きるすべてになっている。そんな彼女の前にソ連軍捕虜のサーシャ（ローラン・テルジエフ）が現われ、二人は愛するようになって彼女の生活にも明日の世界がひらかれる。そのころ、ドイツ軍の敗北は決定的となり、捕虜と女囚を皆殺しにして敗走することを知ったエディットは、サーシャにそのことを伝え、脱走計画をたてるとみずから配電室のスイッチを切るのをかってでて、ナチ兵に撃ち殺されてしまう。エディットを演ずるスーザン・ストラスバーグは、マル・デル・プラータ国際映画祭で賞を受けたほどの好演。監督はジロ・ポンテコルボ。白黒ワイド型。（二十一日からセントラルで）